

ひと・まち・自然

トラまち Press

(一財)世田谷トラストまちづくり情報誌

Vol. 11
September 2013



特集

若者が描く地域づくりの新しいかたち

寛容性が高まる
地域づくりを仕事にする
寺井元一

せたがや散歩日和 第11回
江戸時代の農村風景をたどる

喜多見駅～篠道～氷川神社～慶元寺～須賀神社～
竹山市民緑地～次大夫堀公園へ

結び葉 第11回
大平恒雄さん
再生した等々力渓谷の自然を守り次世代へ



新しい地域づくりのかたちを築いていこう」というものだ。同じ考え方を持つ仲間で集まり新しい価値観を発信する若者たちは、世田谷でも増えている。例えば、商店街の一員になって活性化を応援するところから、地域の人たちとのつながりまで考えるようになつた「ダイタリアン」、持続可能なまち、暮らし、社会へと自分たちの住むまちを変えていこうとする「トランジション世田谷 茶沢会」、マンションとその庭を拠点に、地域の人々とつながりながら日々の暮らしを模索する「たぬき村」。

ほかにも、多様な働き方を探る「ポラリス」、福祉のあり方を問う「une petite maison (小さなおうち)」、デザインの力を地域に活かす「ツール・ド・デザイン」、資源を再利用してものづくりの大切さを伝える「街の木を活かすものづくりの会」など、実に多様な活動が区内で産声をあげている。

今回は、自分たちの思い描く未来を切り開いていこうと、自らの頭で考え、心で感じ、体を動かす若者たちの動きを紹介していく。

戦後約70年。高度経済成長期、バブル、その後の長引く不景気を経て、私たちは多くの問題を抱えてきた。地球温暖化、限りあるエネルギー資源の行く末、他にも、過労死、老人の孤立死、少子高齢化社会の到来にともなう終身雇用制度や社会保障制度の揺らぎなど、次から次へと不安は尽きない。また一方で、パソコンや携帯電話など、多くのモノで生活は一見豊かになり、人々のライフスタイルや物事への姿勢、思考、価値観はどんどんと多様化した。

そんな社会背景の変遷から、30～40歳代の若者を中心に、今、新しい動きが芽生え始めている。その動きとは、自分たちの手で少しずつ、暮らし方や働き方を変え、

未来を切り開くために動き出した若者たち



づくりの新しいかたち

特集

若者が描く地域

商店街に賑わいを呼び戻したい

かつては隣の下北沢以上に賑わいを見せていた世田谷代田。ここに、環状七号線や大型スーパー、ケツの出現、商店街店主の高齢化も相まって、シャッターを下ろす店が増えた世田谷代田駅前商店街がある。この商店街に再び賑わいを取り戻そうと活動するグループが、「ダイタリアン」だ。



1.「お願いします」「ありがとうございます」人々のやり取りが清々しい「洋服ボスト」。
2.ご近所の交流が生まれる「洋服ボスト」の休憩所。
3.「ものこと祭り」では商店街も以前の活気を取り戻したように賑わう。



「この地域のお客さんに貢献できることで改修し、ここに念願の工房が誕生したのだ。
家具工房を持ちたいと思い立った。木工の機械音の問題などで思っていた道を進んでいくと、商店街のなかほどに週末だけ開く1軒の小さな店が見つかる。家具製作・デザイン・建築・インテリアの分野で「モノ」や「コト」を作り出すグループ「monocoto」の工房だ。ここでは、小物雑貨や家具をオーダーできるほか、暮らしにまつわるインテリアやデザインの

相談ができる。この場所で家具の製作や修理をする南秀治さんは、「ダイタリアン」の中心人物でもある。4年前、南さんは世田谷で家具工房を持ちたいと思い立った。やがて木工の学校時代の同窓生が集まり、工房を中心交わりたい、そして一緒に代田のまちを暮らしやすくしていきたいと考えるようになりました」

最初は南さんひとりでスタートしたが、やがて木工の学校時代の同窓生が集まり、工房を中心にして一歩踏み出しました。南さんの考えが共有され、自然と「ダイタリアン」がかたちづくられていったのだ。

「ひとりでやるより、みんなでやるほう

が世界も広がる。ひとりでできることには限界もありますしね」

ものをつくることだけでなく何何か事を起こしたいと考えた南さんたちは、現在、「洋服ボスト」というイベントを隔月で開いてい



工房で椅子の修理をする南さん

や靴などを持ち寄ってもらい、引き取った衣類をリサイクル資源にする。そこから得られたお金の一部は、代田のまちづくりに活用している。イベントスペースの一角に設置された休憩テントで、お茶を飲み、ノートに代田への想いや夢を書き連ねながら談笑する多世代の人々を見ていると、こうした場を地域の人たちが求めていたことに気づかれる。

また、年に1回8月に、「ものこと祭り」を開いている。祭りの日は、商店街の組合の協力のもと、空き店舗のシャッターがいつせいに開き、近くの代田八幡神社も祭りの会場に変身する。商店街では全国から集まつたものづくり作家が作品を展示販売し、神社の境内ではヒノキの積み木やパズルで子どもたちが遊ぶ。竹とんぼのワークショップも開かれ、そうめんならぬジユンサイが流れるイベントでは笑顔が溢れる。

ものこと祭り実行委員会のひとりで、これから新しいプロジェクトを始動する服部信吾さんも、商店街と代田のまちに抱く夢は次から次へとつきない。

「空き店舗の貸主と借主の仲介をして、商店街に衣食住にまつわるお店がどんどんできたらいいですね。自分たちの足元から、少しずつ良いから幸せの波紋が広がっていって欲しいです」

閉じたシャッターが開き、賑わう声が響く。老いも若きも人々が楽しげに道を行き交う……。そんな光景がこの商店街に戻る日も、すぐそこまできているのかもしれない。

持続可能なまち、暮らしが社会へ 今住むまちから変えていく

世田谷代田の隣、下北沢、三軒茶屋にかけての茶沢通り。この地域を中心として「トランジション世田谷茶沢会」によるトランジション・タウン運動が広がっている。この運動は2005年、イギリスのトットネスという人口約8000人のまちで起こった草の根運動で、現在、欧米を中心に日本各地にも広がっている。現代の私たちの暮らしは、化石燃料を始めとする遠くからの資源への依存

によって成り立っている。大量消費型、使い捨ての生活は持続可能なものではない。それに対して、トランジション・タウン運動は、自分たちの住むまちを自分たちの創意工夫で、自立した持続可能なまちへと変えていこうとするものだ。人や自然とのつながりを大切に、食やエネルギー、お金や仕事を地元で循環させ、地域力を高め、また、そのプロセスを大事にする市民の手による運動だ。



1.畠で新鮮な野菜を収穫。「世田谷いいもの探しまち歩き」で地元の良さを知る。
2.カトリック世田谷教会の屋根に、10kWの太陽光パネルを設置。

特集 若者が描く地域づくりの新しいかたち

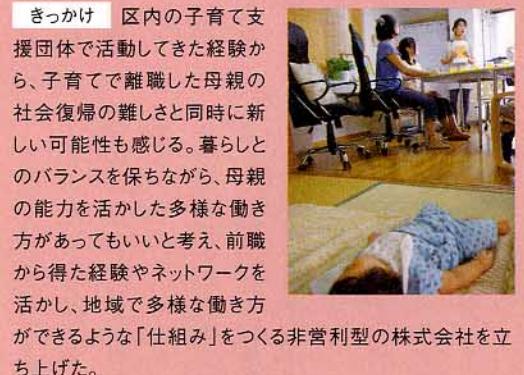


歩き出した活動

多様な働き方の仕組みをつくりたい

非営利型株式会社Polaris(ポラリス)

代表／市川望美 活動拠点／区内全域
<http://polaris-npc.com/>



活動内容 ①地域や暮らしに密着した声を拾いあげたい企業に向けて、「お引越しサービス」として「地域のおでかけマップづくり」など、子育て中の母親目線のマーケティングを展開。②育児で仕事をベースダウンしたい人などと「小さな仕事の依頼主」とを仲介。③子連れで働く「コワーキングスペース」の運営。④高齢者の独り暮らしの見守り」と「小さな起業」を結びつけた空き室活用のコーディネート。実績として、北烏山に「住み開き」の実例が生まれている。

将来の夢 ライフステージに合わせて、暮らし方や働き方が自由に選べる社会をつくるために、どんどん拠点と仲間を増やしたい。

暮らしの延長上にある福祉を求めて

une petite maison(小さなおうち)

代表／大池絵梨香 活動拠点／代田
<http://www.facebook.com/chiisanaouchi>



きっかけ 病院での看護の経験から、在宅看護など福祉の分野に興味を持つ。特別視されがちな福祉だが、本来、福祉と暮らしは常に寄り添ったものであると感じ、衣食住の暮らしのなかに当たり前のように存在する福祉を目指すべく、自宅の居間を開放し、生活と福祉、双方について考えることのできる場所をつくった。

活動内容 一軒家の居間を月数回開放し、イベントを開催。①味噌・梅シロップなどの保存食づくり。②草木染の毛糸でつくる編み物のワークショップ。③近所の羽根木公園へのピクニック。④栄養士や看護師から「食生活」や「看護」について聞き、学ぶ。

将来の夢 福祉分野に携わるスタッフに身近な福祉に関して話を聞いたり、みんなで昔・今・将来の生活について考える場をつくりたい。ゆくゆくは、必要とする人々に日々の暮らしの延長線上にあるような在宅看護を施せる地域環境づくりに取り組みたい。

トランジション世田谷 茶沢会 区内全域

持続可能なまち、暮らしが社会へ 今住むまちから変えていく

世田谷代田の隣、下北沢、三軒茶屋にかけての茶沢通り。この地域を中心として「トランジション世田谷茶沢会」によるトランジション・タウン運動が広がっている。この運動は2005年、イギリスのトットネスという人口約8000人のまちで起こった草の根運動で、現在、欧米を中心に日本各地にも広がっている。現代の私たちの暮らしは、化石燃料を始めとする遠くからの資源への依存

によって成り立っている。大量消費型、使い捨ての生活は持続可能なものではない。それに対して、トランジション・タウン運動は、自分たちの住むまちを自分たちの創意工夫で、自立した持続可能なまちへと変えていこうとするものだ。人や自然とのつながりを大切に、食やエネルギー、お金や仕事を地元で循環させ、地域力を高め、また、そのプロセスを大事にする市民の手による運動だ。

会のメンバーのひとり、写真家の矢郷桃さんがこの活動を始めたきっかけは、1本のドキュメンタリー映画、鎌仲ひとみ監督の一

寛容性が高まる地域づくりを仕事にする

寺井元一「まちづくりクリエイティブ代表」

事業の根底にあるのは「まちは人でできている」

私は2010年から千葉県松戸市で「MAD Cityプロジェクト」というまちづくり活動を始めました。これは松戸駅前を中心に、駅や河川敷、かつての宿場町などがほぼ収まる半径約500メートルを「MAD City」と名付け、若い世代のクリエイターなど新住民を誘致するところから、独自のエリアをつくりだそうとするものです。日常生活だけで顔を合わせるような徒歩圏内に人々が集まることが重要だと考え、設定したのが半径500メートルというエリアです。MAD Cityプロジェクトの本質は、寛容性が高まるまちを生み出すということです。チャレンジングな行為や創造性を支える環境が保たれなければ、まちの活力は失われてしまうはずです。「クリエイティブシティ」の議論では、そういう視点から寛容性が重要な指標として挙げられています。

起業したとはいえ、当初、私たちは特になにも持っていました。まちづくりの実績も、経験も、資金も、事務所すらありませんでした。数人の学生インターナンスを仲間に、松戸駅前のマクドナルドに「出勤」と称して毎週通うことから活動が始まりました。手法の根底にあつたのは「まちは人でできている」という考え方です。「面白いまちをつくりたければ、面白い人を集める」「儲かるまちをつくりたければ、儲ける人を集める」とつまり目的や段階に応じて人材を集めることができ、自分たちのまちづくりの本質だと考えていました。

そのために当初から事業として不動産サービスを想定していました。

Cityプロジェクトの本質は、寛容性が高まるまちを生み出すということです。チャレンジングな行為や創造性を支える環境が保たれなければ、まちの活力は失われてしまうはずです。

「クリエイティブシティ」の議論では、そういう視点から寛容性が重要な指標として挙げられています。

起業したとはいえ、当初、私たちは特になにも持っていました。まちづくりの実績も、経験も、資金も、事務所すらありませんでした。数人の学生インターナンスを仲間に、松戸駅前のマクドナルドに「出勤」と称して毎週通うことから活動が始まりました。手法の根底にあつたのは「まちは人でできている」という考え方です。「面白いまちをつくりたければ、面白い人を集める」「儲かるまちをつくりたければ、儲ける人を集める」とつまり目的や段階に応じて人材を集めることができ、自分たちのまちづくりの本質だと考えていました。

そのために当初から事業として不動産サービスを想定していました。

まちを舞台に不可能だったことを可能にする

一般的に不動産屋といえば物件オーナーと借り手をマッチングして、契約成立後は「我関せず」という仲介ビジネスをします。しかしMAD City不動産の中心になっているのはサブリース、つまり物件を自社で借り上げてオーナー代行となり、リスクを引き受け入居者を募るというものです。巨大な下宿屋をエリアで展開しているといえば分かりやすいかもしれません。下宿屋の親父のように、入居者同士の交流を手助けすることや、時には入居者の人生相談に乗ったり仕事を紹介することまで、MAD City不動産のサービスになっています。弊社がリスクを取ることで、改装自由の物件にするなどの工夫が功を奏して、この3年で約100人の芸術家やクリエイターに松戸駅前に移転してもらうことに成功しています。この不動産サービスの関連では他にも、イベントスペースを自社運営したり、平日はそのままスペースを起業支援的な意味合いで、カフェ

開店希望者に貸し出すなどの取り組みを行っています。最近では入居者発案の企画を支援することで、自発的に人気イベントが次々とできていくような状況が生まれています。

MAD Cityプロジェクトでは初期から、事務所を地元自治会の御酒所に置かせていました（現在は移転）。その際、年2回のお祭りの時期は、お御輿に入るため完全退去する必要がありました。その結果、3年間に6回の一時退去を行いながら、弊社のスタッフもお祭に参加して御輿を担ぐなど、地元の人と、場と体験を共有してきました。また2012年に立ち上げた地域経営団体「松戸まちづくり会議」では、松戸市とともに事務局を務めることになりました。周辺19の町内会・自治会から代表者が参加するこの団体では、新旧住民のコミュニティの再構築に取り組む事業を目指しています。

48万人都市にも関わらず結婚式場がなくなつた松戸市内で、河川敷を「アウトドアウェディング」に活用する企画、横丁系居酒屋の並ぶ商店街通りを道路封鎖して一帯を巨大な宴会場に変える「酔いどれ祭り」、公園全体を現代アーティストのオブジェに変えるインスタレーション、外壁塗装工事を行つているビルに交渉して壁画制作展示を実現するなど、様々な活動が動き出しています。これらの活動は、まちづくり事業のための実証実験でもあるのです。地元住民と新住民、クリエイターや芸術家も混じり合い、公共空間を含めてまち全体を舞台に「今まで不可能だったことを可能にする」実験的取り組みが模索されています。

まちづくり会社を自称していながら、私は「まちづくり」という分野を微妙な存在だと思っています。というのは、「まちづくり」とは言いながら本当に「まち」を「つくる」ような活動は稀だと感じるからです。あるのはむしろ、まちにつくられた「まちづくりっぽい活動」ではないでしょうか。数多くの事例が紹介されるなか、どこか見たことのあるような事例が溢れています。今につながる私の知見の多くは、創造的な人々が集うクリエイティブシティの議論、海外でのスクワットの事例、コワーキングやシェアハウスやノマドを始めた「シェア」の議論、改装からZINEまでを含むDIY的なクリエイティブの事例、インターネットに絡む不動産業界のイノベーション、大手ディベロッパーの拠点プロジェクトでの施策、都心に広がつたストリート文化の事例、そういういた異業種から得たものがほとんどです。

「まち」というあまりに巨大・複雑な存在を相手に奮闘するところが余儀なくされる「まちづくり」。それには「まちづくり」という枠組みにとらわれない、イノベーションの精神が必要です。それゆえに若い世代にこそ、強いメンタルと反骨精神・初期衝動を持つて今後のまちづくりに挑んでいただきたいと思います。

放棄されたが、あるいは誰も住んでいない建物や場所を、所有権も、賃借権も、使用権も持たず占有する行動。千葉県松戸市での「MAD Cityプロジェクト」でクリエイティブなまちづくりを提唱している。英語で「逆牧民」の意味。近年、IT機器を駆使してオフィスだけでなく様々な場所で仕事をする新しいスタイルを指す言葉として定着している。アメリカ西海岸を中心で発展した個人的・小資本で発行される冊子の形態。コピー機で刷り増した原稿を手作業でホチキス止めしたものなど、簡単な手法で気軽に発行され販売されるものが多い。またZINEから有名な翻訳に成長した事例も多い。

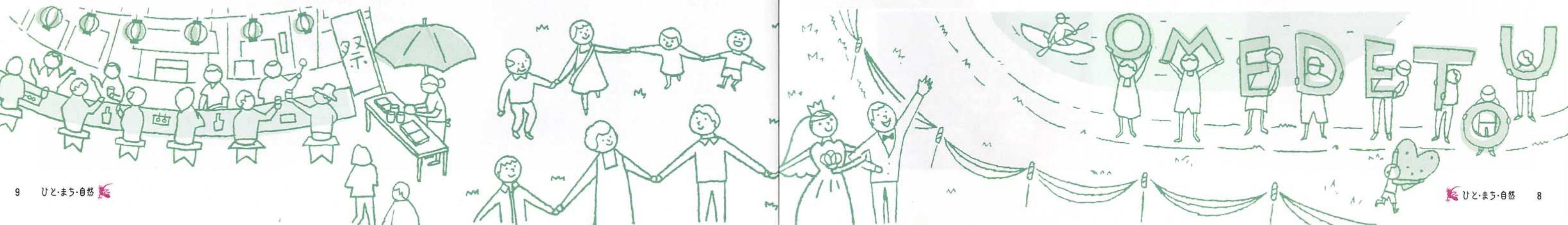


寺井元一 TERAI, Motokazu

株式会社まちづくり代表取締役
千葉県松戸市での「MAD Cityプロジェクト」でクリエイティブなまちづくりを提唱している。

個性派物件を提供してコミュニティをデザインする
「MAD City不動産」イベントスペース「FANCLUB」、
地元「ミーティング活性化する「松戸まちづくり会議」支援などの事業を運営中。

<https://madcity.jp/>





の三重塔が望める。ここから眺めもまたこの地域風景資産に選定されている。農家の庭先の野菜スタンドには大きな木が。のどかな光景だ。稻荷塚古墳を越えて左へ。再び後道に合流した先に、ふと見ると半円形のドーム型の屋根をした建物が。「キタミクリーンファーム」と書いて

ある畠の中の小径へ。ここは世田谷区の地域風景資産として選定された「畠の間の土の道」。どこかなつかしく、江崎さんの地元愛が感じられる。三重塔が見えてきた。慶元寺だ。浄土宗、京都知恩院の末寺でこの地を治めた江戸の菩提寺。江戸氏とは江戸の名前前の元となつた一族で、平安時代末には寺も居館も現在の皇居にあったそうだ。室町時代の中頃にこの地に移り、やがて家康の居城の地、江戸を姓とすることをはばかって喜多見氏と名を変えた。ふと見ると、ふわりと目の前をモ

ある。「どうぞ、よかつたらお入りください」なんだか今日は予期せず招き入れられことが多い散歩だ。正式名称は世田谷区立砧工房分場キタミ・クリーンファーム。障害のある方たちの作業所として、水耕栽培を行っている。即売もしているので、さつそくルッコラとスイートバジル

ンシロチョウが飛び、それに誘われるかのように三重塔のある境内墓地へ。時代の榮枯盛衰を見てきた一族の墓が、ひつそりと寄り添うようにして建っていた。江戸太郎重長の銅像を横目に慶元寺を出て、須賀神社へ。

樹齢400年、区の名木百選に選ばれているご神木のムクノキは、雲が湧き出しているような形の大木。その下に疊ほどの舞台がくつついている。ゴザが敷かれていてひと休みするにはちょうどよい。江崎さんによると「近所の小

学生が放課後、カードゲームに興じていたりする」らしい。神社の社殿が地域の人たちに使われている。昔は、農作業の合間にくつろぐ場所だったかもしれない。祭られているのはスサノオノミコトと菅原道真だそうだ。8月に行われる湯花神事は区指定の無形民俗文化財に指定されている。

江戸時代の農村を復元 古墳群から次大夫堀公園へ

を購入。各100円なり。散歩の醍醐味を満喫した後は来た道を戻り、喜多見五丁目竹山市民緑地へ。うつそうとした竹林がゆっくりと風に葉をそよがせている。区立喜多見子どもの遊び場公園を通って、今回のゴール、次大夫堀公園民家園へ。

茅葺きの屋根の古民家が数軒移築されている。中では糸を紡いでいたり、カイコを飼っていたり。生け垣、釣瓶の井戸。時代劇の世界へ足を踏み入れたようだ。かつては筏師も休憩したという旧城田家の2階でひと休み。「さかや」と書かれた看板が郷愁を誘う。店の前は登戸道と後道が交わっている、という想定。この日は暑い日だったが、分厚い茅葺きの屋根が熱をさえぎり、2階は涼しい風が入ってくる。中が暗い分、表の様子がよく見える。「おう！一杯つけなよ！」なんて筏師の勇ましい声が聞こえてきそうだ。

今回の江戸時代の農村風景をたどる喜多見散歩。歴史あるそれらはただ「残っている」のではなく住んでいる人たちが「残していく」と、大切にしている風景や伝統だった。人とつながり、まちとつながる知恵。残していくことで江戸は遠い昔ではなく、今の私たちの暮らしにも大切な知恵となつて息づいてくる。そんなことを感じる今回の散歩道であつた。

次大夫堀公園民家園

【じだゆうぼりこうえんみんかえん】

1988年11月に開園。名主屋敷(主屋・内蔵・外蔵・薬医門)、古民家2棟、表門(長屋門)、消防小屋などを復元し、公園内の次大夫堀や水田とあわせて、江戸時代後期から明治時代初期にかけての世田谷の農村風景を今に伝える。「生きている古民家」をテーマに、囲炉裏では毎日火がたかれ、農村に伝わる行事も行われ、かつての世田谷の暮らしや風習を体験することができる。

喜多見五丁目竹山市民緑地 【きたみごちょうめたけやましみんりょくち】

かつて喜多見は竹林の多い地域で、多くの農家は竹林を持っていた。「竹山」という名称は、世田谷では竹林を平地にあっても竹山と呼んでいたことからつけられた。定期的なボランティア活動により、竹の間引き・草刈り・園路づくりなどの維持管理作業が行われ、美しい竹林が維持されている。(喜多見5-20 面積は約3000m²)



1. 京都知恩院の末寺、慶元寺。かつて江戸城内紅葉山にあったといわれている。2. 関東一の大福長者と呼ばれた江戸太郎重長の銅像。3. 地域風景資産に指定された畠越しに三重塔を眺める今回案内人、江崎美枝子さん。4. 野菜スタンドがあちこちに。

1.須賀神社の近くにある「第六天塚古墳」。2.稲荷塚古墳。3.竹垣と屋敷林が続く後道へと続く道。4.キタミクリーンファームの水耕栽培。5.次大夫堀公園民家園に移築された旧城田屋は、筏師も休んだ酒屋。6.次大夫堀公園内でザリガニ釣りをして遊ぶ親子連れ。7.次大夫堀公園の田んぼ。地元の小学生などが田植えや稲刈りに参加している。



には古墳が多いのも特徴だ。公園にあり、須賀神社も古墳の上に建っているという。その隣には第六天塚古墳、古くから人が暮らした形跡が残るもの、近くに川や湧き水があったからだろう。稲荷塚古墳綠地からは畠越しに先ほど

に興じていたりする」らしい。神社の社殿が地域の人たちに使われている。昔は、農作業の合間にくつろぐ場所だったかもしない。祭られているのはスサノオノミコトと菅原道真だそうだ。8月に行われる湯花神事は区指定の無形民俗文化財に指定されている。

学生が放課後、カードゲームに興じたりする」らしい。神社の社殿が地域の人たちに使われている。昔は、農作業の合間にくつろぐ場所だったかもしない。祭られているのはスサノオノミコトと菅原道真だそうだ。8月に行われる湯花神事は区指定の無形民俗文化財に指定されている。

学生が放課後、カードゲームに興じたりする」らしい。神社の社殿が地域の人たちに使われている。昔は、農作業の合間にくつろぐ場所だったかもしない。祭られているのはスサノオノミコトと菅原道真だそうだ。8月に行われる湯花神事は区指定の無形民俗文化財に指定されている。

学生が放課後、カードゲームに興じたりする」らしい。神社の社殿が地域の人たちに使われている。昔は、農作業の合間にくつろぐ場所だったかもしない。祭られているのはスサノオノミコトと菅原道真だそうだ。8月に行われる湯花神事は区指定の無形民俗文化財に指定されている。

学生が放課後、カードゲームに興じたりする」らしい。神社の社殿が地域の人たちに使われている。昔は、農作業の合間にくつろぐ場所だったかもしない。祭られているのはスサノオノミコトと菅原道真だそうだ。8月に行われる湯花神事は区指定の無形民俗文化財に指定されている。

学生が放課後、カードゲームに興じたりする」らしい。神社の社殿が地域の人たちに使われている。昔は、農作業の合間にくつろぐ場所だったかもしない。祭られているのはスサノオノミコトと菅原道真だそうだ。8月に行われる湯花神事は区指定の無形民俗文化財に指定されている。

かんたん竹細工にチャレンジ!!

竹コップ

作り方

竹を好きな長さにきって、のみ口にヤスリをかけたら、できあがり! 枝をのこせば、とつてつきのコップになるよ。

コツその①
のこぎりは前後にまっすぐうごかします。ひくときにはこしだけ力をいれるとよくきれるよ!

竹えんぴつ

作り方

竹の枝をかきやすい長さにきって、ドリルで鉛筆の芯をいれる穴をあけます。その穴に、ボンドをいれ、芯をさしこんだら、できあがり!

ミニ竹ぼうき

作り方

柄となる竹と、竹の枝を用意します。枝を柄のまわりにとりつけていく。針金で柄と枝を縛りつけ固定したら、できあがり!

竹のクイズ

aとbどちらの方が若い竹かな?



こっちは!!

若い竹は、つやがあり、節が白くなっているよ。年をとるとつやがなく、節も黒くなっていくんだよ。

*地域活動などに竹材が必要な場合、お分けすることもできます。詳しくはお問い合わせください。

準備～竹をきりたおそう!

竹用のノコギリで竹をきり、あぶない方向にたおれないようにロープをかけてひっぱっておきます。

なかはどうなっているの?



ピッピッ♪

竹っておもっていたよりおもいんだね。



トラスト子ども会員のみんなと楽しもう!

子ども生きもの探検隊

竹細工の名人、永井博さんと福重昌行さんに教わるある日の竹山市民緑地

竹は、昔の暮らしの中でカゴやぼうき、器など、日用品としてうまく利用されていました。今回は、喜多見にある竹山市民緑地で竹細工名人の永井さんと福重さんに教わって竹細工づくり!

喜多見五丁目竹山市民緑地

モウソウチクの林です。ボランティアとともに管理を行っています。(喜多見 5-20)

名人の七つ道具&スタイル

◎スタイル



他課からのお知らせ

このコーナーでは、住まいづくり課と管理課の情報をお知らせしていきます。

報告

あなたもぜひ、トラスト会員に!

世田谷のみどりや歴史を守り育て、次世代に引き継ぐ
「世田谷のトラスト運動」をささえるトラスト会員になりませんか。

会員種別と年会費

- 個人賛助会員:1年会員 1口1,000円 3年会員 1口3,000円
- 家族賛助会員:1年会員 1口2,000円 3年会員 1口6,000円
- 法人賛助会員:1年会員 1口10,000円 3年会員 1口30,000円
- 子ども会員:小学校在学期間1,000円
- 学校会員:無料 ※区内の小中学校が対象

会員特典

- 1 会員証発行 ※学校除く
- 2 情報誌「ひと・まち・自然」等の送付 ※希望者に送付します。情報誌等は財団HPからもダウンロードできます。
- 3 事業協力者からのサービス提供 ※詳しくは当財団までお問合せください。

提携美術館インフォメーション

トラスト会員の方は、優待制度をご利用いただけます。
提携美術館では、以下の展示が予定されています。

世田谷美術館 ☎03-3415-6011	アンリ・ルソーから始まる素朴派とアウトサイダーズの世界 2013年9月14日(土)~11月10日(日)
	実験工房一戦後芸術を切り拓く 2013年11月23日(土・祝)~2014年1月26日(日)
	岸田吟香・劉生・麗子 知られざる精神の系譜 2014年2月8日(土)~4月6日(日)

世田谷文学館 ☎03-5374-9111	幸田文展 2013年10月5日(土)~12月8日(日)
	星を賣る店 クラフト・エヴィング商會のおかしな展覧会 2014年1月25日(土)~3月30日(日)

静嘉堂 文庫美術館 ☎03-3700-0007	幕末の北方探検家 松浦武四郎 2013年10月5日(土)~12月8日(日)
	描かれた風景 ~絵の中を旅する~ 2014年2月1日(土)~3月16日(日)

※展示内容など、詳細につきましては直接各施設にお問い合わせください。

ご寄附のお礼

2013年3月1日~8月31日までに、会費と一般寄附で、総額1,799,295円のご寄附をいただきました。どうもありがとうございます。今後も引き続きご支援の程、よろしくお願ひいたします。

エコポイント環境寄附について

当財団は、国の「復興支援・住宅エコポイント事業」の環境寄附対象団体となり、エコポイントを利用した商品取得と同じ手続きで、ご寄附をいただくことができます。詳細については、当財団までお問合せください。ホームページをご覧ください。

区営住宅の 「地域コミュニティサポート」事業として 健康体操などを実施



住まいづくり課では、区営住宅の管理を行なっています。その一環として区営住宅自治会とまちづくりグループなどが連携し、居住者同士や地域住民とのコミュニティ促進を図るために「地域コミュニティサポート」を実施しています。毎年、区営住宅内集会室で、健康体操や紙芝居などを開催。また、居住者の防災力を高めるための防災サポートとして、消防訓練・防災教室も各住宅で実施しています。

募集

せたがやの家(ファミリー型) 入居者募集中

せたがやの家(中堅所得のファミリー世帯向けの公的住宅)では、先着順にて随時申込みを受け付けられています。世帯の所得に応じて、家賃の一部が助成され、礼金・手数料も無料です。申込資格や物件詳細については、財団ホームページより、「せたがやの家先着順募集物件一覧」をご覧ください。住まいづくり課せたがやの家担当 03-6407-3302

三軒茶屋キャロットタワー駐車場が リニューアルしました

財団が管理するキャロットパーク駐車場がリニューアルオープンしました。ナンバー自動読み取り式ゲートや空き区画の案内灯などを新たに設置し「利用しやすい駐車場」として、また場内照明のLED化やカーシェアリングなど、環境へ配慮したエコ設備を導入しております。ぜひご利用ください。

営業時間 7:00~23:00 年中無休

駐車料金 30分／300円

お問い合わせ キャロットパーク管理室
03-5486-2311

自動二輪車用月極駐車サービスも提供しております。



ト ラ ま ち topics

トラストまちづくり課の上半期(2013年3月から8月まで)の活動トピックスをご紹介します。

空き家等地域貢献活用相談窓口

オープン&活用を考える
ワークショップを開催!

7月1日(月)区内に空き家等(空き家、空室、空き部屋)を所有し、地域に役立てたいと考えるオーナー向けの相談窓口を開設しました。窓口では空き家等のオーナーと活用を希望する団体とのマッチングに取り組んでいます。7月28日(日)には、区が指定した空室の活用を考えるワークショップを開催しました。これをきっかけに、様々な団体が連携して共同企画が生まれることを期待しています。

13カ所目となる 「市民緑地」が

成城に今秋誕生予定です!



成城四丁目の国分寺崖線上に新しい市民緑地が誕生します。カシオ計算機株式会社の設立者、故櫻尾俊雄氏が暮らした住宅の庭で、「成城四丁目発明の杜市民緑地」と名づけられました。故人による多くの発明品は、この庭を眺めながら考案されたといわれています。崖線の斜面を活かした庭園を散策しながら四季折々の表情を楽しむことができる市民緑地です。崖線散策の折など、ぜひご訪問ください。

地域共生のいえ 「真喜樓」が

砧六丁目に誕生しました

「気軽に囲碁を楽しみながら、地域の交流を深める場を」というオーナーの想いから、腕前を問わず囲碁が好きな人、興味のある人が集う場として6月にオープンしました。参加者全員で囲碁ゲームを楽しんだ後は、初心者は先生役の方から楽しい手ほどきを受け、経験者は対戦を進めます。最後はお茶でひと息。「碁ミュニケーション」が育まれています。



第21回 世田谷まちづくりファンド 過去最多44グループに助成決定

5月25日(土)、6月1日(土)の2日間で公開審査会を開催しました。今年度は21年間で過去最多51グループからの申請があり、44グループに対して助成を決定しました。昨年度から新設された「10代まちづくり」部門では中学生を中心としたグループに見事、助成が決まりました。大人顔負けのプレゼンと、運営委員からの質問に、はつらつと淀みなく答える姿に、会場全体が沸き立ちました。

「小さな森」で生きものを テーマとしたイベントを開催

7月28日(日)、午前中は成城三丁目と四丁目の2カ所の「小さな森」でオープンガーデンを行い、実際に生きものを楽しむことができるお庭を見学しました。午後は「生きものアドバイザー」の伊藤晴康氏による「庭やベランダに身近な生きものを呼ぶ工夫」講座を開催しました。来場された皆さんは、生物多様性の大切さや、生きものを呼ぶ工夫についての話に熱心に耳を傾けていました。

世田谷トラストまちづくり大学 公開講座を開催

7月21日(日)「個からはじまる、みどりのまちづくり～まちなか緑化の取り組み～」と題した公開講座を開催しました。(株)チームネットの甲斐徹郎さんに、都市の中での緑化の大切さやみどりを活かしたまちづくり活動のヒントを、具体的な事例をもとにお話ししていただき、当財団から「3軒からはじまる、ガーデニング支援制度」について説明しました。参加者からは、環境共生の大切さに興味を持ったとのご感想をいただきました。



桜丘すみれば自然庭園 開園10周年記念式典が 開催されました

桜丘すみれば自然庭園は開園10周年を迎えました。日頃から同園で様々なボランティア活動を実践する市民団体・世田谷すみればネットが中心となり、6月22日(土)に東京農業大学グリーンアカデミーホールで「すみれば10年の集い」を開催しました。当日は、様々な立場の約100名の皆さんのがお祝いにかけつけ、多くの人たちに支えられてきたすみればの歴史がひと目でわかる記念式典となりました。

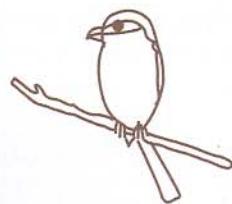


せたがや の 宝物

モズ

【モズ科モズ属】

「百の舌」をつまびかせ 愛を奏でるロマンチスト



秋から冬にかけ、葉を落とした木々の枝先に串刺しにされた昆虫や小動物の姿を見かけたことはあります。秋晴れの空の下、こんな光景を初めて目にした人は心底驚いてしまうかもしれません。

これは季節の風物詩ともいわれる「はやにえ」というもので、モズという鳥が昆虫やカエル、トカゲなどを捕える際の行為です。カギのようにとがったくちばしで獲物を捕まえた後、枝に刺し、

すぐに食べてしまう時もあります。そのまま残しておくこともあります。そのある種残酷な習性から、外国では人々からあまり良いイメージを持たれていないようです。

そんな鋭い印象は、「高鳴き」という鳴き方からも伺えます。秋から冬にかけて聞か



上／眼にかかる黒いラインが特徴のオス。体長は20cmほどで、一見愛らしい姿。下／トカゲのはやにえ

れるこの声は、自分の縄張りに接近したものに発する威嚇の声です。キイー キイー という甲高い声は、秋頃に多摩川の河川敷や喜多見などの農地のそばを歩いていると耳にすることがありますが、実はモズの鳴き声はこれだけではなく、意外な一面があるのです。

梅のつぼみがふくらみ始める2月頃、オスはそのイメージからかけ離れたか細くも澄んだ声でさえ

勇ましいモズも、恋の魔法にかかり、ロマンチストに大変身。身に覚えのあるそのあなた、親近感がわいてきたでしよう？

ずり、自分の縄張りに入ったメスに対し静かに愛をささやくのです。メスに向け自分が捕ってきた餌を与える求愛給餌を行なうほか、求愛の歌やダンスをプレゼントします。この時、モズはとても器用に様々な鳥の声を真似て歌います。メジロ、ヒバリ、シジュウカラなどその聲音は多岐にわたり、それらを組み合わせた複雑なハーモニーでメスを魅了し、めでたく番いとなります。モズを漢字で書くと「百舌鳥」となり、どうやらこれが由来となっているようです。

かればロマンチストに大変身。身に覚えのあるそのあなた、親近感がわいてきたでしよう？

ひと・まち・自然

トラまちPress Vol.11 2013年9月発行



発行／一般財団法人世田谷トラストまちづくり

編集／一般財団法人世田谷トラストまちづくり トマストまちづくり課

〒155-0031 東京都世田谷区北沢2-8-18 北沢タウンホール7階 Tel.03-6407-3311、3313 Fax.03-6407-3319

<http://www.setagayatm.or.jp/>

編集協力
松井編集室

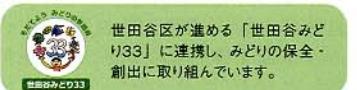
取材・文
大木茉莉 (p2~7 / p20)
小池良実 (p10~15)

デザイン
須崎きみ江

写真
佐藤隆俊 (p2~5)
松井晴子 (p11~13)

イラスト
来迎純子 (表紙 / p8~9 / p20)
南樹里 (p13)

②一般財団法人世田谷トラストまちづくり
2013 Printed in Japan
本誌掲載の写真・記事等の無断転載および複写を禁じます。



世田谷区が進める「世田谷みどり33」に連携し、みどりの保全・創出に取り組んでいます。